

# Mémoires 2020

第64回大阪杯(GI)優勝馬 ラッキーライラック



大阪杯

## 光る勝負強さ、混戦に断



▲レースを先導するダノンキングリー(帽色・緑・左)とジナンポー(帽色・橙・白)の後ろで、ラッキーライラック(帽色・黄・左)は力をためる。



▲GI昇格後、牝馬では初めての覇者となったラッキーライラック。

まさに「牝馬の時代」を象徴する、名牝2頭による決着だった。

人気は割れていた。前年、エリザベス女王杯で1年8か月ぶりの勝利を収めて以降、香港ヴァーズ2着、中山記念2着と高いレベルで安定した走り続けているラッキーライラック。その1歳下で前年の秋華賞馬クロノジェネシス。アメリカジョッキークラブカップを制してきた、2年前の有馬記念勝ち馬ブラストワンピース。2年前のダービー馬ワグネリアン。それらを差し置いて僅かな差で1番人気に推されたのは、前走の中山記念でラッキーライラック以下に完勝し、今度こそはと悲願のGI制覇に燃えるダノンキングリーだった。

確固たる逃げ馬が不在で展開が目される中、先頭に立ったのはそのダノンキングリーだった。競りかけてきたジナンポーと2頭で後続を離し気味に進む。3番手の内にはラッキーライラック、その外にクロノジェネシスが続いた。

直線、ジナンポーを振り切ったダノンキングリーに、外からクロノジェネシスが、そして2頭の間から狭いスペースをものともせず抜け出したラッキーライラックが襲いかかる。残り100mでダノンキングリーを交わしたラッキーライラックは、クロノジェネシスをクビ差抑えてゴール。2013年の勝ち馬オルフェーヴルとの父仔制覇を達成した。また牝馬による大阪杯の優勝はGI昇格4年目で初。出走した12頭中2頭だけの牝馬が1、2着を占める結果となった。

ミルコ・デムーロ騎手は、2018年のスワーヴリチャード以来となる大阪杯3勝目。松永幹夫調教師は騎手時代の1995年にインターマイウェイで勝利しており、史上4人目の騎手と調教師の両方での大阪杯優勝となった。

2歳女王に輝きながら、同期にアーモンドアイがいて3歳時は無冠、4歳春も勝利から見放されたラッキーライラック。しかし「4歳秋から精神的に強くなり、馬群をこじ開けられるようになった。本当に強くなった」と松永調教師も成長を認めていた。デビュー時に480kgだった馬体重はこの日520kg。心身ともに逞しさを増し、初の牝牝混合GI勝ちを果たしたのだった。

### 第64回大阪杯(GI)

4/5 阪神競馬場 2000m(芝・右) 晴・良 12頭

着順	馬名	性別	年齢	斤量	騎手	調教師	タイム/差	人気	通過順位
1	ラッキーライラック	牝	5	55	M.デムーロ	松永 幹夫	1:58.4	②	③③③⑤
2	クロノジェネシス	牝	4	55	北村 友一	斉藤 崇史	クビ	④	③③③③
3	ダノンキングリー	牡	4	57	横山 典弘	萩原 清	クビ	①	①①①①①
4	カテナ	牡	6	57	鮫島 克駿	中竹 和也	3/4	⑪	⑪⑪⑫⑫
5	ワグネリアン	牡	5	57	福永 祐一	友道 康夫	1 1/4	⑤	⑤⑤⑤⑤
6	ジナンポー	牡	5	57	藤岡 佑介	堀 宣行	3/4	⑨	②②②②
7	ブラストワンピース	牡	5	57	川田 将雅	大竹 正博	1/2	③	⑨⑩⑧③
8	レッドジェニアル	牡	4	57	酒井 学	高橋 義忠	3/4	⑫	⑤⑤⑤⑦
9	ステイファースト	牡	5	57	岩田 康誠	矢作 芳人	1 1/2	⑧	⑤⑤⑤⑤
10	サトノソルタス	牡	5	57	藤岡 康太	堀 宣行	ハナ	⑩	⑨⑧⑨⑧
11	マカヒキ	牡	7	57	L.ヒューイソン	友道 康夫	3/4	⑦	⑧⑧⑩⑧
12	ロードマイウェイ	牡	4	57	武 豊	杉山 晴紀	5	⑥	⑫⑪⑩⑧

単勝 ⑤410円 複勝 ⑤140円 ⑫160円 ⑥140円 枠連(5-8) 1,130円  
馬連 ⑤-⑫1,110円 馬単 ⑤-⑫1,970円 ワイド ⑤-⑫370円 ⑤-⑧340円 ⑧-⑫390円  
3連複 ⑤-⑧-⑫1,350円 3連単 ⑤-⑫-⑧7,810円

ハロンタイム 12.9-11.7-12.3-11.9-11.6-12.1-11.7-11.3-11.2-11.7  
通過タイム 600m ③36.9-800m ④48.8-1000m ⑤1:00.4-1200m ⑥1:12.5-1400m ⑦1:24.2-1600m ⑧1:35.5-1800m ⑨1:46.7

優勝馬 **ラッキーライラック**  
2015.4.3生 父オルフェーヴル 母ライラックスアンドレース 母の父Flower Alley  
安平・ノーザンファーム生産 馬主:(有)サンデーレーシング